

創刊のごあいさつ

タイムリーな情報発信で業界発展の一助を担う!

「包む」にまつわる最新情報をより早く、よりタイムリーに——。日本包装機械工業会はこのほど、WEB媒体「パッケージ&マシン通信」を発刊いたしました。1969年7月に創刊以来、約50年の長きにわたりご愛読いただきました機関紙「包装機械新聞」の理念を継承するもので、従来の月刊から隔週(予定)のメール配信に変更することとなりました。ネット社会の急激な進展に伴い、大量の情報がインターネット上に氾濫する中、メディア環境や読者ニーズが大きく変化しています。こうした状況に対応すべく、紙媒体からWEB媒体に切り替えるとともに、発行頻度も増やすことにいたしました。

当会の事業活動や会員各社のニュースおよび最新技術、市場動向などを、従来以上によりタイムリーに配信することで、業界発展の一助になることを願っております。いつでもどこでもすぐに目にする事ができる、読者の方々に密着した形でご利用いただければ幸いです。

一般社団法人日本包装機械工業会 会長 **大森 利夫**



大森 会長

INDEX

2~3面	創刊特集「日本包装機械工業会のあゆみ」
4面	第45期包装学校・修了式
5面	第45期包装学校修了者リスト
6面	2017年度の包装・荷造機械生産・輸出入実績
7面	5月22・23日 JAPAN PACK 出展社説明会
8面	包装リースだより
9面	日包工・年間予定表および委員会組織

機っくおふ

謎に包まれていたブラックホールの存在が初めて視覚的に捉えられた。赤とオレンジ色の輪の中にぼっかりと空いた黒い闇——。世界各地の8つの電波望遠鏡を組み合わせることで、5500万光年離れた「暗黒の天体」のデータを解析し映像化に成功した▶100年以上前にアインシュタインの一般相対性理論によって、その存在が予言されていたブラックホール。目に見えるようになったことで宇宙の歴史の解明にもつながるといふ快挙。多くの謎解きの希望の光となってほしい▶視覚障害者が文字を脳内で映像化する点字にも今、新たな光が差し込んでいる。その主役となるのは「ブレイルノイエ」。既存の点字に墨字でアルファベットやカタカナ、算用数字などを重ね合わせた新たなデザインで「目でも指でも読める」というもの。障害のあるなしを問わない画期的な点字だ▶私も含め健常者の多くは点字を読めない。だれもが読めれば、目が見える人と見えない人との垣根を越えたコミュニケーションが生まれよう▶1964年の東京オリンピックでピクトグラム(絵文字)が使用され、世界に広まった。「ブレイルノイエ」が目指すユニバーサル社会。2020年東京オリンピック・パラリンピックで採用されることを望みたい。(大平 尚)

創刊のごあいさつ

メディア環境変化に対応すべく紙媒体からWEB媒体へ

日本包装機械工業会は1967年1月、故・大森昌三初代会長の発案で日本食糧機械工業会(現日本食品機械工業会)内の包装機械部会から独立するかたちで発足しました。当初は会員数44社に過ぎませんでしたが、半世紀以上経った現在(3月31日現在)、会員数は255社(正会員138社、賛助会員117社)と約6倍にまで拡大。展示会の開催や包装学校の開講、海外視察など、さまざまな活動を通じて国内外のパッケージ産業の発展へ大きく貢献しています。

1969年7月には、毎月15日発行の機関紙「包装機械新聞」を創刊し、日包工の活動状況や会員製品等のPRを開始。このような情報発信を通じて、業界発展の一翼を担ってきました。しかしながら、インターネットの急速な進展を背景にメディア環境や読者ニーズが大きく様変わり。各種情報をより多く、よりタイムリーに発信していく必要に迫られています。

こうした社会情勢に対応すべく日包工では、「包装機械新聞」を2019年3月15日号で終刊とし、4月からWEB媒体「パッケージ&マシン通信」に切り替え、隔週(予定)発行することにいたしました。

事業活動はもとより、包装機械や包材の最新動向、市場統計など、各種情報を従来以上にスピーディーに配信いたします。これを機に、ぜひともより多くの方々にご愛読いただけますよう心よりお願い申し上げます。

一般社団法人日本包装機械工業会 副会長 広報推進委員会委員長 **山本 治男**



山本 委員長



変わらない想い、
創造への挑戦

Enduring principles. Challenging creatively.



2019年展示会出展予定

国内

INTERPHEX JAPAN	7月3日(水)~7月5日(金)	東京ビッグサイト
FOOMA JAPAN	7月9日(火)~7月12日(金)	東京ビッグサイト
SAPPORO PACK	9月18日(水)~9月20日(金)	アクセスサッポロ
JAPAN PACK	10月29日(火)~11月1日(金)	幕張メッセ

海外

CIPM 57th	4月17日(水)~4月19日(金)	中国/長沙
PROPAK ASIA	6月12日(水)~6月15日(土)	タイ/バンコク
PROPAK CHINA	6月19日(水)~6月21日(金)	中国/上海
PACK EXPO	9月23日(月)~9月25日(水)	アメリカ/ラスベガス
CIPM 58th	11月5日(火)~11月7日(木)	中国/重慶

大森機械工業株式会社

本社・越谷工場・さくら工房 TEL 048-988-2121 ホームページ <https://www.omori.co.jp/>

〒343-0822 埼玉県越谷市西方2761

お客様相談センター TEL 0120-89-2180 E-mail koho@omori.co.jp

全国に広がるOMORIネットワーク

仙台営業所	022(374)7655	静岡営業所	054(286)3151	北九州営業所	093(571)6285
大阪支店	072(730)7044	長岡営業所	0258(46)8100	南九州出張所	099(266)3511
札幌営業所	011(667)1663	富山営業所	076(425)7200	広島営業所	082(875)7931
				長岡工場	0258(46)8100

創刊特集

日本包装機械工業会のあゆみ

創立50周年から次の50年へ

1960年代

日本包装機械工業会（以下、日包工・大森利夫会長）は、いざなぎ景気最中の1967年1月、日本食糧機械工業会（現日本食品機械工業会）から独立する形で、誕生した。会員数44社でスタートし、初代会長には2017年5月に亡くなった大森昌三氏（大森機械工業創業者）が就任した。同氏は、1996年まで29年間の長きにわたり会長職を務め、同年5月、佐藤保壽氏にバトンを渡した。以降、2004年に石田隆一氏が第3代会長、2010年に生田芳規氏が第4代会長に就任。生田氏の死去に伴い、2013年に大森利夫氏が第5代会長に選任され、現在に至る。

当会の設立目的は、言うまでもなく業界の発展だが、そのための主要な事業として「JAPAN PACK」の開催と、「包装学校」の開講に力を入れている。

JAPAN PACKの歴史は古く、1964（昭和39）年11月に日本食糧機械工業会・包装機械部会主催で「日本包装機械展」（JAPAN PACKの前身）を、東京・新宿の日本駐車ビルで開催した。同年、アメリカ政府による「アメリカ包装機械・食品機械展」の開催発表に刺激を受けたもので、出品社数24社、222小間と、小規模な展示会だったが、包装機械のみを一堂に集めた催しは国内初ということもあり、会期中の入場者数は約6450人に上った。翌1965（昭和40）年10月には第2回展を開催し、前回は上回る実績を収めた。回を追うごとに規模は拡大し、ドイツのインターパック、アメリカのパックエキスポ、イギリスのパケックスと並ぶ「世界4大包装機械展」の1つに認定されるまでに発展を遂げた。

1981（昭和56）年、1964（昭和39）年から単独主催していた日本包装機械展（JAPAN PACK）と、1966（昭和41）年から日本包装技術協会と共同主催していた東京国際包装展（東京パック）の見直しに着手。東京国際包装展の主催を辞退し、2年に1度の開催に改めることになった。1981（昭和56）年から日本包装機械展を「日本国際包装機械展」と名称変更するとともに同展に絞って開催することにした。遡って1967（昭和42）年10月には、第3回日本包装機械展を大阪国際見本市港会場で開催。出品社数111社、377小間と初の大坂開催として大成功を収めた。このときから「JAPAN PACK」という名称が併用され、東京と大阪で交互に開催するという原則が定められた。同年から会員企業の共同カタログ集「ジャパンとパッケージング・マシン・ガイド」（日本包装機械便覧）の刊行も始まった（現在は廃刊）。

日包工は、1969（昭和44）年に欧米の包装機械技術や包装市場の動向を知るために最初の視察団をヨーロッパに派遣。以来、アメリカやヨーロッパで開催される主要展示会に数多くの視察団を派遣している。同年7月には、広報事業として機関紙「包装機械新聞」を創刊。毎月1回発行し、会員製品のPR、工業会の事業活動、業界を取り巻くトピックス、国の施策、統計資料の分析等の報道を通して、包装機械業界と需要業界とを結ぶ重要な橋渡し役となっている。

1970年代

1972（昭和47）年の日中間の国交回復で、中国が新市場として注目されるようになり、中国も日本製の包装機械に高い関心を示すようになった。1974（昭和49）年11月、日本製包装機械

を一堂に集めた「天津・日本包装機械展覧会」を開催。出品社数42社、86小間で、80%が成約するという好成績を収めた。

一方、包装技術やパッケージングエンジニアリング技術、オペレーター技術、包装機械と包装資材との適正化技術、経営管理技術等の総合教育を目標として、業界独自の専門教育機関「包装学校」を1974（昭和49）年に開校。受講生は会員企業の従業員だけでなく、需要業界にも裾野を広げ、包装産業界全体のレベルアップに貢献している。現在、第46期包装学校の受講生を募集中で、第45期までで4747人の包装スペシャリストが輩出している。

1980年代

1981（昭和56）年には、包装機械業界の世代交代を円滑に進める土台づくりと、国際感覚をもった未来志向の新世代を養成するため、青年部会を設立。勉強会や講演会を開催するなど、業界全体の活性化に寄与している。夏季セミナーでは、異業種、競合メーカーを問わず懇親を深め、海外の市場・展示会視察にも取り組み、海外進出の実現に結びついたケースもある。

グローバル化が進む中で国際化への具体的なアクションも起こす。具体的には、円滑な国際取引を推進するため、包装機械の安全衛生基準の国際的統一実現へ向けた働きかけを欧米の同業組織に行い、協議・検討を始めた。1982（昭和57）年11月、シカゴに日本とアメリカ、ヨーロッパの包装機械団体の代表が集まり、第1回国際会議を開催。国際協調と相互理解を深めた結果、1990（平成2）年にC.O.P.A.M.A.（世界包装機械団体連合会）が設立された。

以降、1983（昭和58）年4月に輸出PL保険（生産物賠償責任保険）に団体加入。1994（平成6）年6月には日本でもPL法が制定され、1995（平成7）年7月1日から施行された。日包工は、PL法の施行と同時に国内PL保険にも団体加入し、内部組織であるPLセンターの機能を充実させた。1982（昭和57）年に起案した「包装・荷造機械の安全衛生基準」は、「包装・荷造機械検査センター」事業の礎となった。ユーザーが安心して使えるように包装機械の安全性を高める目的でスタートしたこの事業は、1980（昭和55）年度に設置した安全衛生推進委員によって、1986（昭和61）年10月1日、業界の自主基準となる「包装・荷造機械の安全衛生基準-1986」として制定、「基準」第1版を発行した。1984（昭和59）年7月には、「21世紀への包装機械産業ビジョン（1985～1995年）」をまとめた。日本経済の実質成長率が4～6%台に低下したなかで、以後10年間の業界の成長性を見通し、企業体質の転換の方向、強化すべき問題点等を指摘した。

1985（昭和60）年9月には包装・荷造機械検査センターの設立準備委員会を設置、1987（昭和62）年3月31日に包装機械の安全技術に関する相談、指導、検査を主な業務とする、包装・荷造機械検査センターを設立した。

44社でスタートした当会は、今では255社（3月31日現在）の会員数を有するまで成長し、包装機械の生産高も設立当初（1968年度）の374億円から約4458億円と10倍以上拡大している。当会のさまざまな挑戦が少なからず業界発展の後押しにつながったものと自負している。

2019 -To the future!-

■JAPAN PACK 2019 10月29日から幕張メッセで

日包工最大のイベントである「JAPAN PACK 2019（日本包装産業展）」が10月29日に千葉の幕張メッセで開幕する。32回目となる今回は、「きっとみつける あなたの包程式」をテーマに11月1日までの4日間行われる。詳細・問い合わせは、JAPAN PACK 2019ホームページ<http://www.japanpack.jp/>まで。



3月7日 機械振興会館

包装機械設計52人 パッケージングエンジニア50人 マイコン4人の106人が修了

第45期包装学校・修了式

昨年6月に開講した第45期包装学校（大森利夫学校長）は3月で全課程を終了し、同月7日に東京（機械振興会館）で、14日に大阪（大阪商工会議所）で、それぞれ修了式を行った。受講生全員参加による開講式、オリエンテーションでスタートしてから、およそ10カ月の全カリキュラムを修了した。修了式当日には、いずれも最終講義とディスカッションが行われた。その後、東京では大森学校長（大森機械工業社長）が、大阪では梅森輝信（ゼネラルパッカー会長）学校長代行が、それぞれ各課程修了者へ式辞を述べるとともに修了証書を授与した。

大森学校長は、包装産業について「包装というのは開けてしまえばごみになる。そういった意味では寂しい業界ではあるが、物流には欠かせないもので生活必需品が新鮮な状態で消費者の手に届く。それゆえ包装は人が食べたり、飲んだり、トイレに行ったり、化粧したりといった行動がなくなる限りあり続ける。人の生活になくってはならないもので、縁の下の力持ち的役割としてさまざまな業界に貢献している」とアピールした。

国連が推奨するSDGs（持続可能な開発目標）についても触れ「17項目の中で、『飢餓をゼロに』が包装に関係していると考えている」との見解を示し、食品ロスが3分の1出ていると言われている中、「ロスを防ぐのがまさに包装ではないだろうかと思う」と述べた。現在、海洋ごみなどプラスチック問題がクローズアップされているが、これに関しては「経済産業省主導のクリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）が1月に発足し、当会も参画している」と説明。プラスチックに関するさまざまな問題を何とか解決しよう

と包材メーカー、ユーザー、包装機械メーカー等が業種を超えて協力していくもので、「みなさんも関わりが出てくると思うので、その時にはお力添えをいただきたい」と呼びかけた。

と同時に、「一人ひとりの力は限られているが、何か問題が生じたときには、同期のみんなと力を合わせて解決していってほしい」とエールを送った。

ディスカッションでは、「保証期間が過ぎても、機械構成部品（部品やネジ等）による異物混入が発生した場合は、機械メーカーに責任がある」「エコの時代ではあるが、スーパーでのいたづらがしにくいなど、食の安心・安全を考えると、現在の二重、三重の包装形態は支持される」——等の3テーマを設定。YES、NOの立場から侃侃諤諤（かんかんがくがく）と議論を繰り広げた。

今期の修了者は全3課程合わせて106人。内訳は包装機械設計技術専門課程が52人（東京27人、大阪25人）、パッケージングエンジニア専門課程が50人（東京28人、大阪22人）、マイクロコンピュータ制御技術専門課程が4人（東京4人）となった。包装機械専門課程とパッケージング専門課程の成績優秀者には、包装機械相談士と包装機械設計士の認定試験受験資格が与えられ、今後は称号取得に向け、各々がさらなる高みを目指してチャレンジしていくことになる。

現在、第46期受講生を募集している。 <https://www.jpmma.or.jp/>



大森 学校長

■第45期包装学校修了者

◆包装機械設計技術専門課程

梓澤知絵（川島製作所）稲垣卓也（大森機械工業）井上秀斗（横浜自働機）岩間和也（東京自働機械製作所）江川正和（同）角貴樹（大森機械工業）加藤琢也（東罐興業）金鎖萬（シンワ機械）久保田祥平（川島製作所）小泉忠理（凸版印刷）斎藤友貴（大森機械工業）佐藤好幸（イーデーエム）杉本弘幸（クノール食品）須合謙仁（東京自働機械製作所）鈴木康平（シンク・ラボラトリー）津久井雄司（不二レーベル）中塚秀育（日本製粉）能見洋樹（大森機械工業）前川勇氣（山田機械工業）増田光（静甲）三嶋快彰（鈴木製作所）峯田要（同）矢吹賢洋（大森機械工業）吉原正貴（同）和田拓也（静甲）渡邊光太郎（ストラパック）渡辺利文（東罐興業）＝以上、東京27人。

板倉亮太（フジキカイ）伊藤裕規（同）上田健太（古川製作所）宇祢美希子（同）大崎洋輔（三橋製作所）岡本洋平（トパック）奥村真之（トキワ工業）川合啓太（ロート製薬）蔵田裕也（東洋自動機）新川将基（イシダ）高瀬智成（シブヤパッケージングシステム）高塚鏡弘（フジキカイ）竹内銀治郎（トパック）土倉涼太（シブヤパッケージングシステム）外山智也（CKD）中川優也（フジキカイ）西岡貴博（東洋自動機）西森佳寿美（CKD）橋本一輝（東陽機械製作所）林和樹（フジキカイ）増田和馬（ゼネラルパッカー）宮西結香（東洋自動機）胸永拓也（フジキカイ）山北敬太（クノール食品）山田淳也（大和製衡）＝以上、大阪25人。

◆パッケージングエンジニア専門課程

姉川和章（イーデーエム）伊藤学（東洋自動機）乾祐輝（理研食品）上田裕己（大和製衡）小野拓哉（ハナガタ）加藤裕和（大森機械工業）金山竜也（古川製作所）北田貢久（フジキカイ）北原貴之（日本包装機械）熊谷康平（極東高分子）暮石光博（岩田レーベル）呉駿介（東京自働機械製作所）小杉章則（片岡物産）小寺悠毅（古川製作所）澤田祥吾（東陽機械製作所）XING WEIJIE（ボッシュパッケージングテクノロジー）田神学（シンワ機械）谷口俊祐（フジキカイ）千葉健一（東京施設工業）富田智彦（大森機械工業）能松真也（ゼネラルパッカー）初見友弥（永谷園）福永武海（東京アライドコーヒー ロースターズ）福原知哉（大和製衡）本多広志（大森機械工業）馬瀬口文月（シンク・ラボラトリー）松永将光（東洋自動機）村松誠治（イーデーエム）＝以上、東京28人。

飯田智宏（フジキカイ）井上敬太（ハイパック）岩崎博史（トパック）大島準（川島製作所）太田和良（アルマーク）加藤佳樹（フジキカイ）志村有信（のむら産業）高橋健志（フジキカイ）高山理花（古川製作所）照喜名未来（ライオンエンジニアリング）都鳥裕之（トーワテクノ）中里哲也（川島製作所）丹生石啓佑（エムエスティ）野村勇（三立製菓）長谷川純也（ゼネラルパッカー）パッタラボンスクサイ（古川製作所）丸山誠二（三立製菓）三谷厚作（フジアステック）山内将也（ゼネラルパッカー）山中祐佳（フジキカイ）山本勉（大和製衡）横田哲也（フジパックシステム）＝以上、大阪22人。

◆マイクロコンピュータ制御技術専門課程

大宅駿寿（トパック）末永美幸（古川製作所）長谷川徹（ストラパック）松田祐季（フジアステック）＝以上、4人。

生産高4458億円8年連続のプラス成長

輸出 過去最高額を更新 輸入も4年ぶりに増加

【平成29年度の包装・荷造機械生産・輸出入実績】

わが国の包装機械生産高は現在、4458億2200万円で8年連続のプラスとなっている。日本包装機械工業会（大森利夫会長）が集計した平成29年度の包装・荷造り機械の生産実績と輸出入実績によるもので、これに業界構造や需要構造、製造業者一覧などを加えて「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめている。それによると、前年度と比較して3・8%増加し、4000億円台も4年連続でキープした。年初はマイナス基調で推移するも、夏以降生産が回復。輸出が過去最高水準を記録した、前年度と同レベルで推移したのに加え、深刻化する国内の人手不足を背景に省力化・自動化ニーズが下支え。アジア諸国での人件費高止まりによる製造業の国内回帰も継続中で、国内での設備投資が再び活発になったことからプラスを維持した。

機種別でみると、個装・内装機械は、製袋充填機や小箱詰め機、上包機など、全13機種中7機種（その他を含む）で増加した。外装・荷造り機械は、全8機種中、ケース詰め機やバンド掛け機など、3機種の増加にとどまった。全体の金額では個装・内装機械が144億6500万円増（104・0%）、外装・荷造り機械が18億800万円増（102・5%）と、いずれも金額ベースで前年度実績を上回った。

数量ベースでは個装・内装機械が前年度比1万2526台減の27万1754台（95・6%）、外装・荷造り機械が同6811台増の7万6321台（109・8%）と、明暗を分けた。

前年の調査段階では個装・内装機械3641億2200万円、外装・荷造り機械736億6100万円の計4377億8300万円、前年度比1・9%増と予測（計画）されていたが、実績では個装・内装機械が3728億2100万円、外装・荷造り機械が730億100万円の同3・8%増となり予想を上回った。個装・内

装機械は8年連続のプラス、外装・荷造り機械は3年連続のプラスとなった。

輸出 過去最高の524億円 輸入は4年ぶりのプラスに

輸出は、北アメリカ地域向けが好調で、アジア地域とヨーロッパ地域の落ち込みをカバー。前年度比0・3%増の微増ながら、524億273・7万円と5年連続で増加し、過去最高額を更新した。輸入は、メインのヨーロッパ地域とアジア地域、北アメリカ地域で軒並み大きく伸長。アフリカ地域からも5年ぶりに実績があるなど、同40・1%増の166億1890・9万円で4年ぶりのプラスとなった。

輸出は全6州中、アジア州で約13・5億円、ヨーロッパ州で約6億円のマイナスとなったものの、北アメリカ州が約15億円増となり全体をカバー。ほかの3州もプラスを記録し、微増となった。国別では、中国が前年度比で微減ながら9年連続で輸出先1位となった。

一方、輸入は前年度比47億5450・3万円増の166億1890・9万円と大幅に増加し、4年ぶりのプラスとなった。輸入先1位のイタリアだけで前年度実績を約21億円上回り、輸入トップ10すべての国でプラスが記録された。州別では、ヨーロッパ州が前年度比38億9124・4万円増と大幅なプラス。アジア州と北アメリカ州もそれぞれ同6億4550・6万円、同2億1743・7万円増加した。オセアニア州は3年ぶりの実績ゼロに。南アメリカ州とアフリカ州からは、いずれも5年連続で実績がなかった。輸出入バランスは357億9613・5万円の出超。

包装機械および荷造機械生産高実績・計画

（単位：金額・・・百万円、比率・・・%）

区分 年度	個装・内装機械		外装・荷造機械		合計	
	金額	前年度比	金額	前年度比	金額	前年度比
実績						
平成6年度	329,635	101.4	86,934	100.2	416,569	101.1
7	338,300	102.6	90,029	103.6	428,329	102.8
8	358,709	106.0	91,669	101.8	450,378	105.1
9	345,779	96.4	89,233	97.3	435,012	96.6
10	321,643	93.0	82,503	92.5	404,146	92.9
11	314,350	97.7	80,724	97.8	395,074	97.8
12	331,912	105.6	82,503	102.2	414,415	104.9
13	332,724	100.2	85,399	103.5	418,123	100.9
14	320,604	96.4	74,407	87.1	395,011	94.5
15	310,188	96.8	75,181	101.0	385,369	97.6
16	327,534	105.6	76,729	102.1	404,263	104.9
17	325,235	99.3	81,322	106.0	406,557	100.6
18	335,332	103.1	83,759	103.0	419,091	103.1
19	347,817	103.7	81,388	97.2	429,205	102.4
20	328,108	94.3	74,918	92.1	403,026	93.9
21	301,614	91.9	72,581	96.9	374,195	92.8
22	309,175	102.5	70,948	97.8	380,123	101.6
23	314,292	101.7	68,846	97.0	383,138	100.8
24	326,079	103.8	60,355	87.7	386,434	100.9
25	330,636	101.4	63,068	104.5	393,704	101.9
26	338,338	102.3	62,419	99.0	400,757	101.8
27	345,025	102.0	63,446	101.6	408,471	101.9
28	358,356	103.9	71,193	112.2	429,549	105.2
29	372,821	104.0	73,001	102.5	445,822	103.8
計画						
平成30年度	378,244	101.5	74,697	102.3	452,941	101.6

JAPAN PACK 2019 「出展社説明会」

5月22日・東京 23日・大阪で開催

日本包装機械工業会（大森利夫会長）は5月22日に東京、23日に大阪で「JAPAN PACK 2019（日本包装産業展）」の出展社説明会を開催する。

東京は、東京・中央区のCIVI研修センター日本橋N5 HALLで、大阪は、大阪市北区の第二吉本ビルディング貸会議室C室で実施する。参加可能人数は、両会場とも1社当たり最大2人まで。

JAPAN PACKは、日包工が主催する「包む」にまつわるアジア最大級の総合展で10月29日～11月1日までの4日間、千葉の幕張メッセ（国際展示場）で行われる。

■東京会場

日時：2019年5月22日（水）14:00～15:30

会場：CIVI研修センター日本橋N5 HALL（東京都中央区日本橋室町4-1-6 クアトロ室町ビル5、電話03-5298-1810）

URL：http://www.civi-c.co.jp/access_t.html#nihonbashi

■大阪会場

日時：2019年5月23日（木）14:00～15:30

会場：第二吉本ビルディング貸会議室C室（大阪府大阪市北区梅田2-2-2 ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー8階、電話06-6341-3334）

URL：<http://yb2-kaigi.com/access.html>

申し込み・問い合わせは、「JAPAN PACK 2019」運営事務局（東京都中央区新川12-5-6 包装機械会館3階、電話03-6222-2277 / FAX03-6222-2280 / E-mail: ohiwa@jpmma.or.jp）担当：大岩、佐藤、井上、阿部まで。

「ProPak Asia 2019」日本パビリオンに出展

日食工とのコラボレーションセミナーも企画

日本包装機械工業会（大森利夫会長）は、6月12日から15日までの4日間、タイ・バンコクのBITECで開催される包装関連展「ProPak Asia 2019」の日本パビリオンに出展。日包工を含む17社・団体が、50小間（480平方メートル）を超える展示スペースに集結し、関係日系企業の海外ビジネス促進を狙う。



ProPak Asia（プロパック・アジア）は、毎年6月にタイ・バンコクで行われる、製造加工・包装に関するアジア最大級の国際展示会。過去26回の実績があり、昨年6月の前回展では、約5万8000平方メートルの会場内に世界44カ国から1581社が出展した。来場者も国際色豊かでタイはもちろん、世界79カ国から4万8799人が訪れ、活発な商談が展開された。日本企業にとってアジア・アセアン地域における市場進出やビジネス拡大の玄関となり得る貴重な展示会となっている。

日本パビリオンに出展するのはエー・アンド・デイ、大森機械工業、澁谷工業、城南自動機/横浜自動機、東京自動機械製作所、トキワ工業、トバック、ニッカ電測、日本ポリスター、古川製作所、三橋製作所、三浦工業、メイワ、大和製衡、レオン自動機、日本包装機械工業会——の17社・団体。

また、会期中には日本食品機械工業会との共同セミナーも企画。現地食品業界ユーザーや政府機関等を招待して食品加工技術と包装技術のコラボレーション事例発表や出展社プレゼンテーションを実施し、タイ食品業界へ向けて課題解決策を提案する。

加速する包装機械の国際標準化

「ISO 国内審議委員会」を設置

【日本包装機械工業会・技術委員会】

2017年、イタリアが包装機械に関する欧州規格のEN415をISO（国際標準化機構）に提案したのに伴い、国際委員会（ISO/TC313）が発足。これを受け、日本包装機械工業会（大森利夫会長）の技術委員会では急ぎ「ISO国内審議委員会」を設置し、同年12月25日に第1回委員会を開催した。

2019年2月19日の平成30年度第6回技術委員会では、①ISO/TC313/WG1会議の報告②JAPAN PACK 2019アワード案の決定③同主催者技術セミナーの検討——などについて討議した。なかでも①では、フジキカイの齋藤勲委員が、1月中旬にドイツのマンハイムで開催された国際会議（EN415 - 10包装機械の一般事項）の内容を報告。その後、5月にWG（ワーキンググループ）1ドラフト版が発行、7月に第2回ISO国内審議委員会を開催、8月末意見書提出、10月22、23日、第2回WG1国際会議、10月24日、第2回全体国際会議（イタリア・ミラノ）、2020年5月5～7日、第3回WG1国際会議（ドイツ・フランクフルト）などのスケジュールを確認した。国際会議は、最低でも2021年末まで続く予定で、標準化の対応に遅れることのないよう今後も継続して情報収集や意見交換を行っていく。

このほか、計量法改正の周知徹底も図っており、5月8日の第7回技術委員会ではIoT研究会などを議題に挙げ開催する予定。

プラスチック問題解決目指す

企業連携「CLOMA」に参画

日本包装機械工業会（大森利夫会長）は今年1月18日に発足した「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」に参画し、プラスチックごみ問題の解決に取り組んでいる。CLOMAは、プラスチック製品の持続可能な使用や海洋プラスチックごみなどにつながる廃棄物の削減を目的に経産省主導で設立。食品メーカーや小売り、包材メーカーなど業種を超えた約160の企業・団体が加盟している。言わば関係者の連携を強めイノベーションを加速するためのプラットフォームで、革新的な代替品の開発と普及促進を目指す。

現在、普及促進と技術、国際連携の3部会を設けており、セミナーによる取り組み技術の紹介など、具体的活動を展開。これらの活動内容や海外動向などは、「CLOMA通信」を通じて配信している。

詳細・問い合わせは、CLOMA事務局（東京都千代田区、電話03-6687-8812、Eメール: cloma@jemai.or.jp）。



平成30年度 優秀省エネ機器・システム表彰 中小企業庁長官賞

（主催：一般社団法人 日本機械工業連合会）

受賞

超音波加熱式シールを横形ピロー包装機に搭載し、業界初・市場導入したオンリーワンの実績が評価されました！

超音波加熱シール搭載の主な導入メリット

1. 従来のシール方式に比べて大幅に消費電力を削減
2. 熱によるフィルム・製品ダメージを無くし、廃棄ロス低減
3. 熱源がなく安全
4. シール幅の短縮によりフィルム使用量を削減



受賞機器名：超音波加熱シール式横形ピロー包装機（new TLM-αシステム）

【展示会・出展予定】 超音波加熱シール搭載機の展示をいたします。ご来場お待ちしております！

FOOMA JAPAN 2019（2019 国際食品工業展）
7/9（水）～12（金）：東京ビッグサイト

JAPAN PACK 2019（日本包装産業展）
10/29（水）～11/1（金）：幕張メッセ

ロボテックス（2020 ロボット開発・活用展）
2/12（水）～2/14（金）：東京ビッグサイト

< 営業品目 >

■横形ピロー包装機 ■縦形ピロー包装機 ■ストレッチフィルム包装機 ■シュリンク包装機 ■袋ホルダー ■カートニングマシン
■袋詰め包装機 ■上包機 ■包装用ロボット ■多層データネットワークシステム ■各種包装システム



包装リースだより

89

株式会社日本包装リースは、日本包装機械工業会の会員が出資して設立した包装機械・関連機械の専門リース会社です
お問い合わせ先：企画管理部 電話03-6222-2261
http://www.jpml.jp/



東京自働機械製作所
山本社長

会員会社インタビュー⑤

今回で5回目となるインタビューは、日包工副会長であり、弊社の役員でもある東京自働機械製作所の山本治男社長にお話を伺いました。

①包装リースは今後どのように進めていくことが望ましいと考えていらっしゃいますか？

【山本社長】

設立当初から基本的な考え方は変わらないはずであり、社名にある「包装」をより深く掘り下げ、時流に合わせていく必要がある。あるリース会社から「貴社の機械はどんな機械ですか」と聞かれたことがあり、このリース会社と包装リースとは、包装に関しては格段の差があり、その優れている点を強調して差別化を図るべき。日包工からは業界の統計情報もリアルタイムで入手でき、これを活用しながら、会員企業を良く知り、設備投資情報をいかに早く入手するかが重要だと思う。事業承継サポート等を行う子会社も立ち上げており、これと同様に海外進出サポートについても何らかのスキームを考えていく必要がある。

②包装リース全社員に向けたメッセージをお願いします。

【山本社長】

大森利夫会長も発言されているが、包装に携わるメーカーの営業でもスーパーに行かない者がいる。消費者として現場を見ることは重要であり、スーパーに行かなくても自宅の台所や妻の行動を良く観察すれば、新しい発見があるかも知れない。最近はメーカーも消費者の声を重視しており、包装リース社員においても、これを実践してほしい。

③今一番力を入れている趣味をお聞かせ下さい

【山本社長】

郊外に引越したこともあり、畑仕事に力を入れている。葉物野菜は虫との戦い。仕事と同様に正直にやれば報われるが、さぼれば報われない。また、健康維持と気分転換のため、週1回インナーマッスルのジムに通い、年1～2回はきれいな海（セブ島など）に行っている。
(聞き手：東日本営業部長 樋口貴久)

包装リースだより

90

株式会社日本包装リースは、日本包装機械工業会の会員が出資して設立した包装機械・関連機械の専門リース会社です
お問い合わせ先：企画管理部 電話03-6222-2261
http://www.jpml.jp/



キョウエイ
杉本専務

会員会社インタビュー⑥

6回目のインタビューは、日包工青年部会の部会員であるキョウエイの杉本栄三専務にお話を伺いました。

①青年部会の活動に参加してどのようなことが印象に残っていらっしゃいますか？

【杉本専務】

いろいろな包装機械メーカーの方と親しくなれて非常に勉強になっている。工場見学会も楽しみにしており、できる限り参加している。3月の見学会は国産ジェット試作機の組み立て工場を予定。これまでの思い出としては、ある会社の工場見学会で異業態への華麗な転身を目の当たりにして、自分の会社も製袋機に特化するだけではなく、包装業界からの枝分かれで、他分野への進出も考えなければいけないかなという思いが湧いたこと。

②今お気に入りの趣味をお聞かせ下さい

【杉本専務】

出張が多いので、疲れを癒すために朝風呂（銭湯・サウナ）に行っている。あとは野球観戦。昔、阪神ファンのサイトを立ち上げたことがあり、その仲間と年に1回は甲子園で阪神戦、もう1回は全国の阪神交流戦を観戦している。その際に、広島県呉市の「てつこのくじら館」で潜水艦を見たり、北海道のスキージャンプ台を間近で見たりするなど普段できない体験をしている。

③包装リース社員に向けたコメントをお願いします。

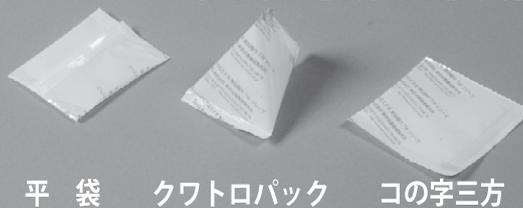
【杉本専務】

包装リースの営業担当は、まめに顧客を回って情報を提供してくれるなど大変助かっている。樋口部長は、最初とつきにくい人だと思ったが、今では懇意にさせてもらっている。包装リースを知らない顧客もあり、こちらが紹介して成約になればうれしいし、今後も包装業界においてお互いの利点をアピールしていきたいと思っている。
(聞き手：東日本営業部長 樋口貴久)



クワトロパック 包装機

1台で3種の包装形態を兼用可能!



平袋 Kwatroパック コの字三方

FOOMA JAPAN 2019

実演展示いたします

2019年7月9日(火)～12日(金)
東京ビッグサイト
ブースNo. 西 1H-24



ものづくり、そして価値づくりへ。
おかげさまで創立70周年を迎えます。

株式会社 東京自働機械製作所

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-10-7 本社営業部 TEL: 03-3866-7631
URL: http://www.tam-tokyo.co.jp MAIL: sales@tam-tokyo.co.jp

一般社団法人日本包装機械工業会・株式会社日本包装リース
 主な行事等の開催日時・名称・会場(案)

2019/2/26 現在

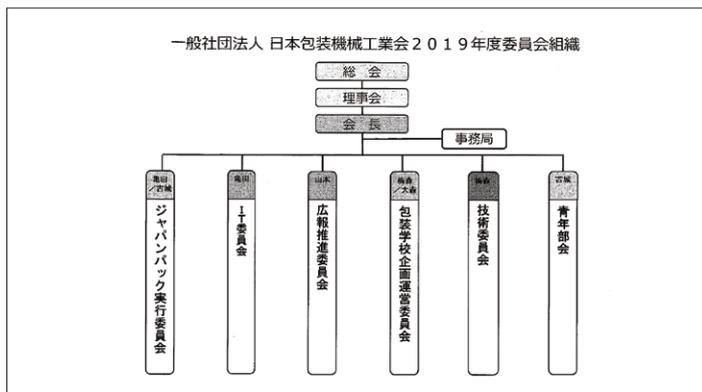
2019年		行事等の名称		会場
1	18 金	14:00 ~ 16:00	工業会：新年賀詞交歓会 リース：新年賀詞交歓会	パレスホテル東京 4階「山吹」
2	26 火	14:00 ~ 16:00	工業会：正副会長会議	包装機械会館
5	13 水	17:30 ~ 20:00	工業会：関西支部役員会・支部会	京都
6	13 水	17:00 ~ 19:30	工業会：中部支部役員会・支部会	名古屋
7	14 木	15:00 ~ 17:00	工業会：第45期包装学校修了式(東京)	機械振興会館
8	13 水	15:30 ~ 19:30	工業会：関東支部役員会・支部会	包装機械会館
3	13 水	13:30 ~ 17:00	工業会：第343回理事会	包装機械会館
14	14 木	15:00 ~ 17:00	工業会：第45期包装学校修了式(大阪)	大阪商工会議所
27	27 水	13:30 ~ 14:30 14:30 ~ 14:45	リース：取締役会 リース：監査役会	包装機械会館
4	24 水	15:00 ~ 17:00	工業会：業務・帳簿監査	包装機械会館
		12:00 ~ 13:15	工業会：正副会長会議	
29	29 水	13:30 ~ 14:30 15:00 ~ 16:15	工業会：第344回理事会 工業会：平成31年定時総会	鉄鋼会館
5		16:30 ~ 18:00	工業会：総会懇親会	
30	30 木	9:03 ~	工業会：第87回懇親ゴルフ大会	千葉カントリー
31	31 金	13:30 ~ 14:00 14:00 ~ 15:00	リース：監査役会 リース：取締役会	包装機械会館
25	25 火	16:00 ~	リース：株主総会	包装機械会館
6	27 木	13:00 ~	工業会：第46期包装学校開講式	愛知県額田郡・天の丸
28	28 金	~ 13:00	オリエンテーション	
9	13 金	13:00 ~ 14:00 14:15 ~ 15:30 15:45 ~ 16:45 16:45 ~ 17:00	工業会：正副会長会議 工業会：第345回理事会 リース：取締役会 リース：監査役会	包装機械会館
10/29 ~ 11/1	火 ~ 金	10:00 ~ 17:00	工業会：JAPAN PACK 2019	幕張メッセ
12	3 火		工業会：正副会長会議 工業会：第346回理事会 リース：取締役会	(未定)
			工業会：歳末特別講演会	
4	4 水		工業会：第88回懇親ゴルフ大会	(未定)
2020年				
1	15 水	14:00 ~ 16:00	工業会：新年賀詞交歓会 リース：新年賀詞交歓会	パレスホテル東京 4階「山吹」

マスタック 4月1日付でグループ再編

マスタック(埼玉県所沢市、電話04・2948・0162)は4月1日付でグループを再編した。機械事業部を分社化し、「株式会社マスタックマシナリー」を設立。持株会社の「株式会社マスタックホールディングス」は、「株式会社マスタック」に社名変更し、事業管理会社としてグループ全体を統括する(概要は別表参照)。

2018年9月に食品事業を分社化した、菓子をOEM生産する100%子会社の「株式会社マスタック東京ばな奈ファクトリー」と共に、グループ全体のさらなる発展を目指す。

商号	株式会社マスタック	株式会社マスタックマシナリー	
旧商号	株式会社マスタックホールディングス	株式会社マスタック	
事業内容	マスタックグループの管理部門	製菓機械の開発・製造・販売、メンテナンス、菓子の研究開発	
代表者	代表取締役社長 増田文治	代表取締役社長 増田文治	
資本金	1億円	1億円	
設立年月日	1957年3月	2019年4月	
決算期	3月末日	3月末日	
所在地	【本社】 埼玉県所沢市小手指元町 1-27-20 TEL. 04-2948-0162	【本社】 埼玉県所沢市小手指元町 1-27-20 TEL. 04-2948-0162	【入間工場】 埼玉県入間市狭山ケ原2-2-1 TEL. 04-2948-0164
部署	●管理本部 ●マーケティング部 ●情報システム部 ●総務人事部	●営業本部 ●メンテナンスサービス部 ●エンジニアリング部 ●技術サービス室 ●ショールームアトリエ	●生産本部 ●第一生産部 ●第二生産部 ●電気設計部 ●生産管理部 ●パーツセンター ●品質管理室 ●お客様相談センター



私たちイシダグループは、世界中のお客様の課題を革新的に解決し、安全・安心で豊かな社会の創造に貢献します。

はかりしれない技術を、世界へ。

ISHIDA

株式会社イシダ www.ishida.co.jp
 本社 京都市左京区聖護院山王町44 〒606-8392

目指すのは、包装機械の製品・技術向上。
 よりよい未来を支えるために。

包装機械を検索

会員企業リスト

出展企業募集中

JAPAN PACK 2019